

令和6年度 第3回学校運営協議会

日時：令和6年11月21日（木）

10:00～11:30

出席者 A委員：学識経験者 B委員：公民館代表
C委員：市役所関係者 D委員：福祉関係者
E委員：福祉関係者 F委員：医療関係者
G委員：前PTA代表 H委員：現PTA代表
I委員：本校校長

オブザーバー参加：副校長2名、中学部代表、高等部代表2名、寄宿舍代表 計15名

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 日程説明（菅原副校長）
- 4 教育活動の経過報告（菅原副校長）
- 5 熟議
「気仙光陵支援学校の可能性を見つけたい！」の取り組み等の進捗状況
- 6 諸連絡
今後の運営協議会の日程について
- 7 閉会

1 開会

2 校長挨拶（要約）

本日はお集まりいただきありがとうございます。児童生徒は元気に学校生活を送っています。先日「光陵祭」が行われ178名の来校がありました。今年度は事業所様の販売も復活し、児童生徒も日頃の学習成果をたくさんの方に発表することができました。高等部の立根川美化活動が今年度も「立瀬川を愛する会」の方々と共に実施しました。11月1日には教育表彰も受けております。「学校へ行こう週間」では保護者だけでなく本校に関心のある方々にも来校いただきました。このように地域に支えられていることを感じる11月でした。前回の学校運営協議会以降、本校の職員も少人数のグループに分かれてディスカッションを行いました。その結果について本日はご助言いただきたいと思います。本校が気仙地域でどのように存在していくか皆さんと考えていきたいと思っております。

3 日程説明

4 教育活動の経過報告（菅原副校長）

5 熟議

「気仙光陵支援学校の可能性を見つけない！」の取り組み等の進捗状況

熟議

進行：前回「気仙光陵支援学校の可能性を見つけない！」をテーマにディスカッションを行っていただいた。その後、本校職員間で4人1グループのディスカッションを行った。9月下旬から12月中旬までの間にグループ毎に時間を設定した。テーマ①は「気仙光陵の可能性を見つけない～児童生徒の未来につなげたい～」 「気仙光陵といえば…」、テーマ②は「とりあえず、すぐに実現させたいこと」「現行の改善点の一つ決める」とした。感想としては、「様々な職種と話し合いができていい機会だった。」「これからやりたいことを話せた。」「時間調整が難しかった。」「業務が増えた。」と様々な意見が出された。ディスカッション後、校長が各グループにコメントしている。また、グループディスカッションを受けてできることとして、「作業製品販売拡大」「学校行事のお知らせ配布」「ボランティアフェスティバル参加」「立根地区公民館町民文化祭作品展示参加」を実施した。本日の職員会議では管理職より「あなたのアイデア応援します！」「中学生・高校生向け学校見学」を提案する予定である。現在の取り組みやそのほかについて委員の皆さまからご意見を頂きたいと思っている。

F委員：全体的に話し合うのはいいことだが、話し合いながらも「期間の途中でグループから提案された事項を推進するのはどうか？まだ話し合いを行っていないグループもある。」という意見があった。どのようにまとめて、どのようにフィードバックするかが大切だと思う。

校長：「文化祭のお知らせを配りたい」や「作品を地域に展示したい」ということに対しては、来年度に持ち越すのではなく、今取り組めるものはすぐ取り組んだ。

F委員：事前にいいアイデアが出たら実行すると事前に言っていたのか？

校長：事前ではなかったが、ディスカッションが始まってすぐに、職員会議で実行できそうなアイデアはすぐ取り上げることを伝えてある。「失敗しても OK。まずはやってみる。」ということで始めた。管理職の方で事前にすぐにできるものは取り上げるという手順を示すことが必要だったかもしれない。「作業の野菜を売りたい」、「作品を展示したい」などは、この時期でないと実施できないこともある。

B 委員：正直全部出たものをやるのは無理である。管理職ではなく何人か先生方を入れるとよい。できるかどうかの判断を管理職がやっていけばよいのではないか。

E 委員：これはブレインストーミングなので、ブレストのルール設定を確認しておくことが必要だった。時間調整が難しいという意見があったが、異業種と仕事をする場合、特に時間調整は必要なことである。

F 委員：意見を収集したら、それを整理する人が別にいた方がいいと思う。これを整理するメンバーが必要ではないか。取り上げられる意見を出した人と取り上げられなかった人の落差に配慮したい。

校長：ディスカッションの結果を Teams 上で共有している。一つ一つの考えの裏に大きな思いがあることを実感している。

F 委員：他者のグループの意見を知ることに関しては、「ワールドカフェ」という手法がある。ディスカッションメンバーを何度かシャッフルし、最後に自分のグループに戻ってくるというやり方で、自分の考えが偏っていたかもと最後に思えたりする。

校長：時間のある夏休みにやればよかったと思う。例えば、権現舞を続けられるのかという課題にしか目を向けていなかったが、実は先生方は続けたい思いがあることを知った。年度内に方向性を出したい。アンケートは思った以上に「地域」というワードが出てきて、他の支援学校と比べても「地域」に対する思いがあると感じた。

進行：進め方を確認し、じっくりやることとそうでないものの精査が必要である。また、職員から組織立てて行うことも検討したい。今までは炉辺談話的にしか話していなかったところを、今回取り上げることが出来たのは成果である。

A 委員：それぞれの先生方が意見をもっていることを知った。ある気仙沼の学校は、先生方から意見を聞いて、すぐやれることとじっくりやること（数年かけてやること）の整理をした。例えば、バス停を学校の前に持ってくる、学食を作る、学校 PR はプロがつくったものではなく、生徒が楽しそうなものを作成するなど工夫を重ね、入学生が増えていった。今、気仙光陵はスタートラインに立ったところ。管理職がやるとトップダウンとなるので、職員のグループを組織することが大切である。

B 委員：円卓会議というものを地区のまちづくり協議会でやっている。自由に話し合えようという場を作り、町民の話を尊重しながら、失敗しながらも実行していく。地域発信はすぐできる。市の広報関係へお願いすると行政連絡員を通じて、回覧してくれる。地域活動

を行う際は、ぜひ声をかけてほしい。

C 委員：市も協力できることがあれば言ってほしい。光陵祭で高等部の気仙太鼓の発表を見た。ぜひ、ほかの方にも知ってもらえる機会があればいいのでは。福祉の里など高齢者施設の慰問などはどうか。

D 委員：まずは行動に移したことに敬意を表したい。意見を言えばやれるという感覚が職場の皆さんにあるのではないか。この意見をどう集約するのが大切である。

E 委員：まずはブレインストーミングをやった段階なので、優先順位をつけること、ファシリテーターを立てることが必要である。誰か第三者的な人が必要なのではないか。また、今回のテーマは「業務改善」なのか「地域の魅力」についてなのか、そこに向けてどうするか大切である。学校経営も企業経営も同じで、意見が散らからないようにした方がよい。

F 委員：結果が重要である。「今までやっていなかったこと」「なんとなくいいことだね」ではなく、結果が出やすいテーマを選ぶ。外部の第三者的な方をファシリテーターにすると説得力がある。また、子供たちに対して、こう決めたからこのように進むと決めるのは、適正でないときもあるので配慮が必要である。

G 委員：たくさん意見が出ているなと感じた。これをまとめるのは大変だと感じた。自分の子どもが在籍しているときはコロナ禍だったので、今ならたくさんの方々の行事ができると思う。

H 委員：先生方の思いが継続できるような仕組みづくりが必要である。学校を知ってもらうには光陵祭のようなものがある。多くの方々に知ってもらう仕組みを継続して行ってほしい。

校長：貴重なご意見をありがとうございました。今まで聞く機会がなかった職員の思いを感じることができたと感じています。今日のご意見をもとに、整理していきたいと思えます。今後とも引き続きお願いします。

6 諸連絡

今後の運営協議会の日程について

令和7年2月19日（水）10:00～11:30

7 閉会